

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天
誠を尽くせば天が
味方してくれること

秀吉が造った長浜城石垣を発見

実りの秋の季節を迎えました。各地で秋を彩る祭りやイベントが盛んです。

さて、湖北・長浜の文化の薫りと歴史の重みは日本一です。そのシンボルとなる長浜城は、天下人となった戦国武将羽柴秀吉後の豊臣秀吉が、当時「今浜」と呼ばれていた地を「長浜」と改め、初めてその居城として築城したことから、「出世城」として親しまれています。

先日、市の行う長浜城跡の発掘調査で、秀吉が城主だった時代に築かれたと見られる石垣が見つかり、秀吉が築城したという証になりました。

これまでも各種文献などから秀吉が長浜城を築城したことは明らかでしたが、大坂夏の陣に勝利した徳川家により1615年に廃城とされたことから、遺構としてはほとんど残っており、城として機能した時代の明確な絵図面等もないことから、城の全容は明らかにされていませんでした。

今回の発掘調査で、石垣の底の部分に置く根石8個と、大量の裏込石(栗石)が見つかりました。築城時期が推定できる石垣の発見は、今回が初めての事です。

このことは、NHKの全国ニュースでも取り上げられ、8月17日の現地説明会には全国から、秀吉ファンや、お城ファンなど約300人以上が長浜城跡に集まり、歴史ロマンを体感していただきました。

市民の皆さんも、この機会に長浜城歴史博物館にお越しいただき、戦国の歴史に触れていただければと思います。

長浜のまちづくりの核は、やはり歴史・文化であり、全国に「歴史・文化のまち長浜」の魅力をPRしてまいります。



▲秀吉時代の石垣に歴史ロマンを感じて

市立病院通信-102-

お元気ですか

消化器内科部長
野田 恵加 先生

大腸がん検診を受けましょう

日本人が生涯でがんにかかる確率(罹患率)は、約2人に1人と言われています。中でも大腸がんは、食事の欧米化などの影響で近年増加傾向にあります。全てのがんの中で罹患率は1位、死亡数は2位となっています。大腸がんの進行度は、ステージⅠで表され、早期の段階であるステージⅠの5年生存率は90%以上。つまり、大腸がんは早期に発見されれば治療によって治る可能性が高いことを意味しています。

大腸がんを早期に見出すには、40歳以上の人は年に1度、大腸がんの検診を受けることが推奨されています。大腸がん検診を受けると、大腸がんで死亡する確率が60〜80%下がるというわれています。

大腸がん検診では、便潜血検査という便の中に血液が混ざっていないかを調べる検査が行われます。精密検査が必要とされ

た人は、医療機関を受診し、大腸内視鏡検査を受けていただく必要があります。そのうち、5%程度で大腸がん、20〜30%で前がん病変といわれる大腸腺腫(ポリープ)が発見されます。

検診をお勧めすると、「今、症状がないから」と、検査に消極的な人も多いのですが、早期の大腸がんには症状がありません。市では、総合健診、医療機関(検診)において、それぞれ500円、800円の自己負担で受けることができますので、気になる症状がなくてもぜひ検査を受けてください。腹痛、出血、便秘・下痢などの便通異常、便の狭小化、残便感などの症状が既にある人は、医療機関で診察を受けてください。

もうひとつ、検診と同時に重要なのが、がんにならない生活です。科学的根拠に基づくがん予防ガイドラインでは、「禁煙」、「節酒」、「食生活」、「身体活動」、「適正体重の維持」の5つの健康習慣の実践で、がんリスクは軽減するとされています。より健康的な生活習慣を取り入れていただければと思います。

問 市長長浜病院

(☎ 62-2300 (代表))

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとくあり輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介していきます。

市指定文化財 木造阿弥陀如来立像

登録日：平成 21 年 3 月 30 日

所在地：小野寺町

賢明院は小野寺町にある真言宗豊山

派寺院で、かつては小野寺、浄水寺とも

称しました。創建は不詳で、本尊は江

戸時代作の薬師如来像です。境内に

石造宝篋印塔(元亨2年・1322)が

あり、隣接する神明神社はもと十八所

権現とも称し、仁寿元年(851)に小

野寺を開いた小野篁が、守護神として

祀ったとも伝えられます。江戸時代

の地誌『淡海木間攷』の小野寺村の項に

は、真言宗浄水寺の名が見え、京都嵯峨

大覚寺の末寺と記されています。『東

浅井郡志』によれば小野寺は、近隣の醍

醐寺、飯山寺、大聖寺、保楽寺とともに

下草野五山の一つに数えられ、飛鳥時

代の呪術者である役小角の創建で、一

山に49院を有したと伝え

ます。

浄水寺は明治6年に火

災により焼失したため、

明治23年に復興の一環

で、神照寺の下寺であつ

た賢明院と合併しまし

た。本像はそのとき、神

照寺から移されたものと
伝えます。賢明院は現在、
自治会長が中心となつて
小野寺町が管理し、本像
は長浜城歴史博物館に寄
託されています。
本像は木造で像高48.
0センチメートル。頭頂
に肉髻(頭部の隆起を表し、衲衣とい
う衣を左肩から懸け、右肩を覆肩衣と
いう衣で覆い、下に裳を着ける通例の
如来形で、右手を曲げ、左手を下げて来
迎印を結ぶ阿弥陀如来像です。
低めで小さい肉髻は地髪との境界があ
いまいで、大粒の螺髪(丸まった髪)
を切り付けます。額は狭く、丸顔に三
日月形の伏し目を小さく表し、温和な
表情をしています。襟もとを一段折り
返して左右対称に整え、大腿部に連続
する同心円状の衣文線、股間にY字形
衣文を配するなど、平安時代中期の如
来像にみられる古様な作風がみられま
す。特に膝下には、この時代に流行し
た翻波式衣文を等間隔・左右対称に刻



▲木造阿弥陀如来像の頭部

みます。

木材の材種は不明ながら、頭体幹部は両袖まで含めた一木造で、内刳(うちく)はありません。現状、すねから下を根継ぎし、両手先も後から補われたものに変わっています。

2尺にも満たない小像ですが、プロポーションに優れ、体部に比べて頭部を小さくつくり、大腿部を大きく表し、腰下が非常に長くたくましい姿をしていることから、仏としてのスケールの大きさを感じさせます。平安時代中期(11世紀前半)の作と考えられます。

問 長浜城歴史博物館

(☎ 63-4611)